

令和5年における旭川市の人口動態について

1 全体概要

表1. 旭川市の年間(1～12月)人口動態

(単位:人)

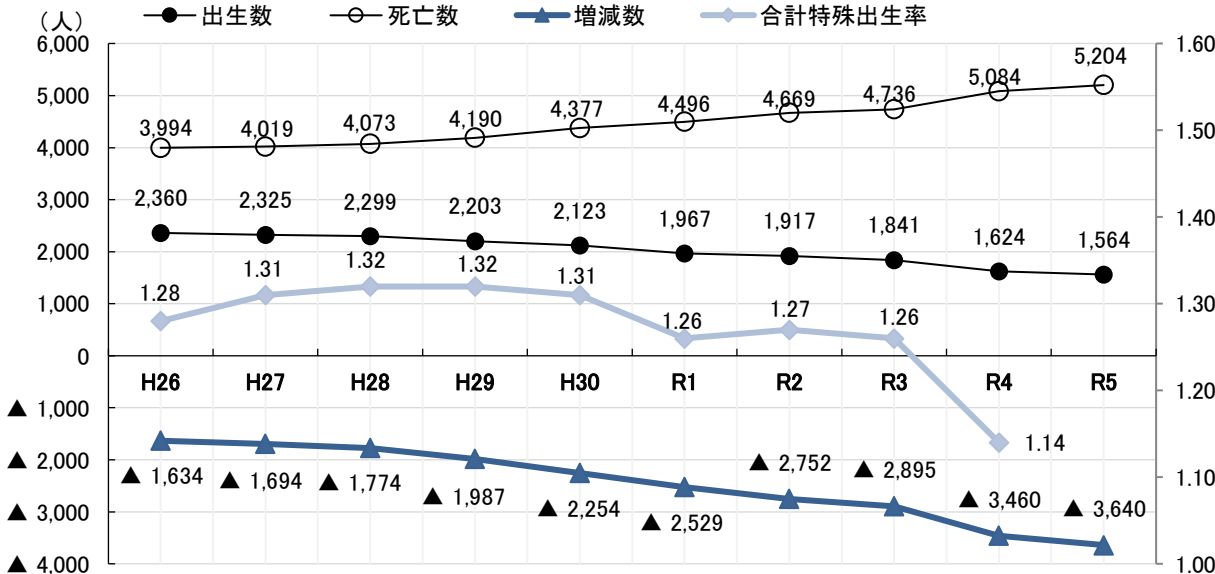
	次年1月1日 現在人口	自然動態			社会動態			全体 増減
		出生	死亡	計	転入	転出	計	
令和3年	327,960	1,841	4,736	▲ 2,895	10,039	10,581	▲ 542	▲ 3,437
令和4年	324,186	1,624	5,084	▲ 3,460	10,135	10,449	▲ 314	▲ 3,774
令和5年	320,436	1,564	5,204	▲ 3,640	10,235	10,345	▲ 110	▲ 3,750
R5-R4差	▲ 3,750	▲ 60	120	▲ 180	100	▲ 104	204	24

(参照:統計で見る旭川(市HP))

- 令和5年1月～12月における人口動態は3,750人の減少で、自然減3,640人、社会減110人となった。
- 自然増減は前年比180人の減少拡大、社会増減は前年比204人の増加となった。

2 自然増減の推移

図2-1. 旭川市の年間(1～12月)自然増減の過去10年間推移

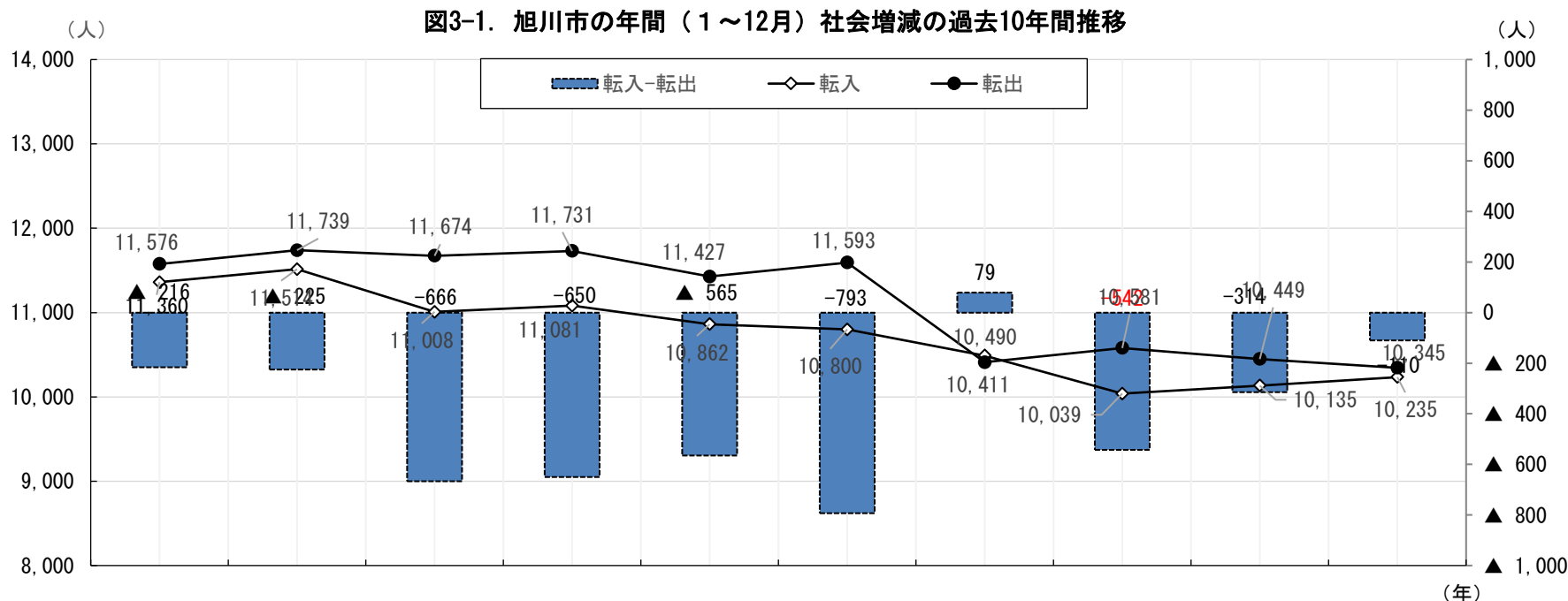


(参照:統計で見る旭川(市HP)ほか)

- 死亡数は、増加が続いており、令和5年は前年より120人多い、5,204人となった。
- 出生数は、平成26年以降、毎年減少を続けており、令和5年は前年より60人少ない、1,564人となった。
- 出生率は、平成24年以降、増加傾向で平成28年には1.32となったが、令和2年から減少に転じ、令和4年が1.14となった。(国1.26 北海道1.12)

3 社会増減の状況

(ア) 推移



(参照:統計で見る旭川(市HP))

- 令和5年の転入者数は、10,235人で過去10年間で3番目に少ない水準となっているものの、前年より100人増加している。
- 令和5年の転出者数は、10,345人で前年より104人減少し、過去10年間で1番少ない水準となっている。
- 結果、社会増減数（転入-転出）は、110人の転出超過となったが、超過幅は204人小さくなった（▲314人→▲110人）。

(イ) 地域別転出入状況

図3-2. 過去5年間の道内移動

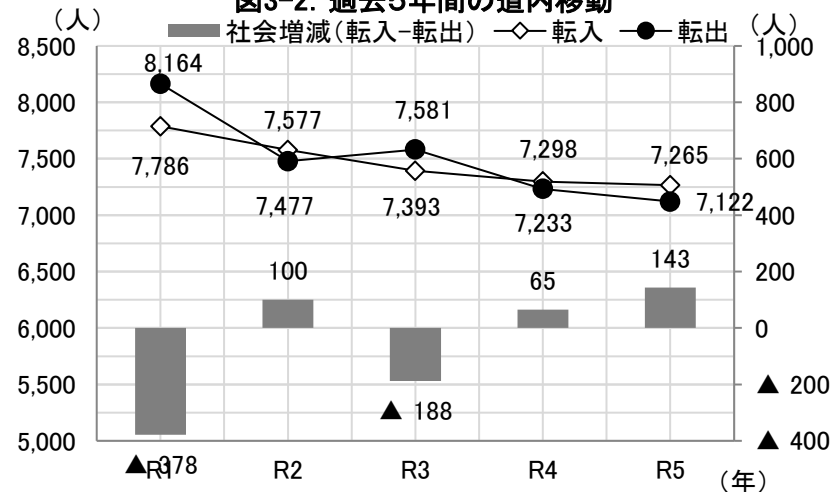
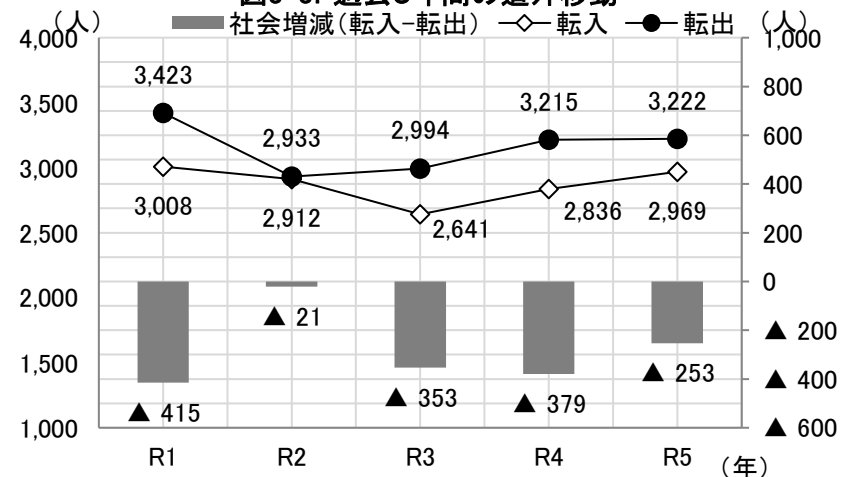
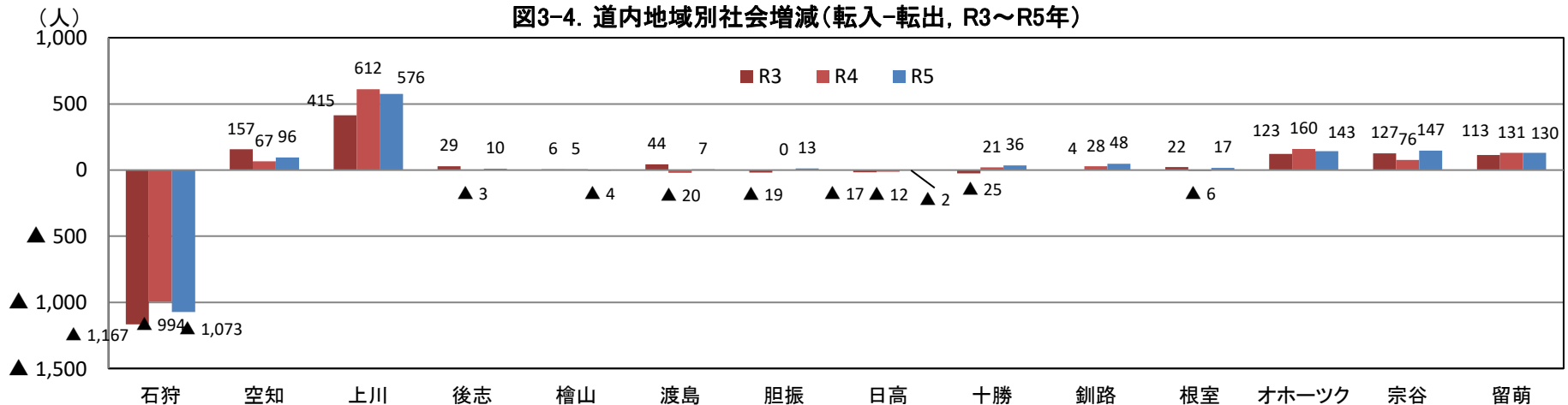


図3-3. 過去5年間の道外移動



(※図3-3は職権登録, 削除分を含む。)

図3-4. 道内地域別社会増減(転入-転出, R3~R5年)



【主な特徴：道内は転入・転出ともに減少、道外は転入・転出ともに増加。道外の社会増減（転入-転出）の超過幅は小さくなりつつある。】
(旭川市調べ)

- (図3-2) 道内移動については、転入者数が5年連続で減少が続いている。(平成26年以降減少が続いている)
一方で、令和3年に転出超過(▲188人)となったものの、転出の減少が続いており、結果として143人の転入超過に転じた。
- (図3-3) 道外移動については、転入者数が前年より133人増加したものの、転出が7人の増となっており、結果として253人の転出超過となった。
- (図3-4) 道内移動の14地域別比較では、転出超過が最も大きい石狩地区が前年より79人増加し、1,073人の転出超過と高い水準となっている。
一方で、空知、上川、オホーツク、宗谷、留萌といった道北、近隣地域からの転入超過の傾向が続いている。

(ウ) 男女別転出入状況

図3-5. 男性・移動推移

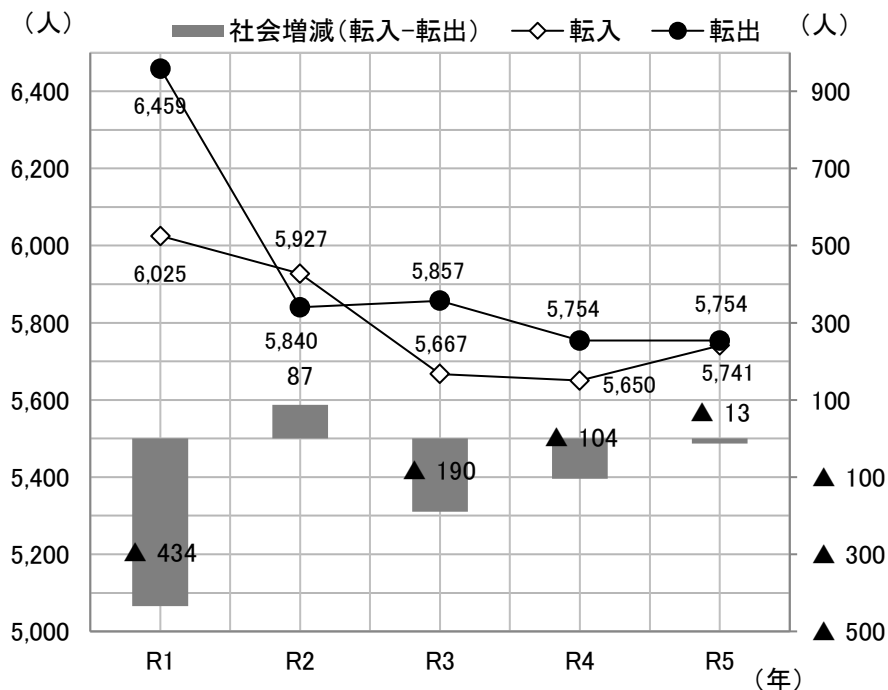
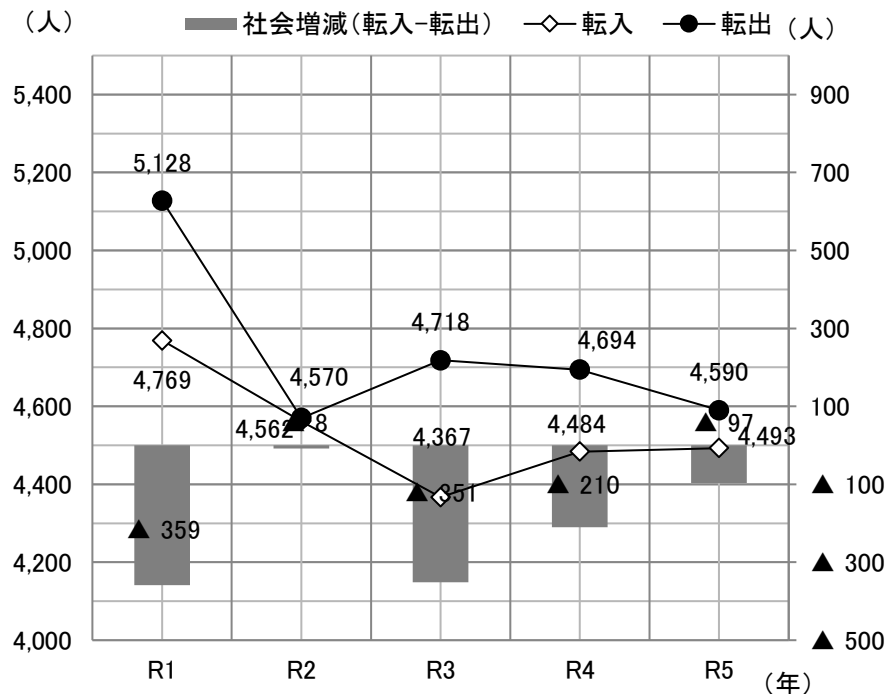


図3-6. 女性・移動推移



【主な特徴：男女とも転入者数は増加，転出者数は減少傾向にあり，社会減は減少傾向にある。】

- (図3-5) 男性は，転入者数が前年より91人増加し，転出者数は前年と比べ増減はなし。結果，転出超過は13人となり，転出超過は前年から91人減少した(▲104人→▲13人)。
- (図3-6) 女性は，転入者数が前年より9人増加し，転出が前年より104人減少した結果，転出超過は97人となり，転出超過は前年から113人減少した(▲210人→▲97人)。

(工) 年齢区分別転出入状況

図3-7. 年齢区分別(転入-転出)

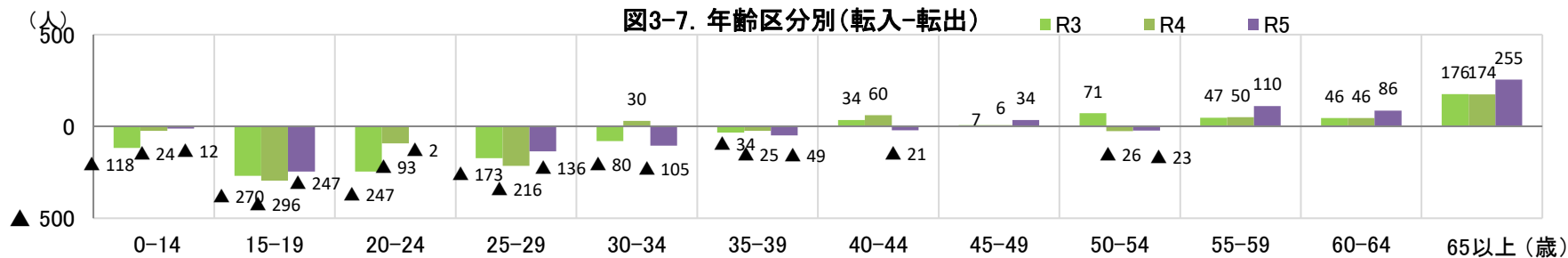


図3-8. 男性・年齢区分別(転入-転出)

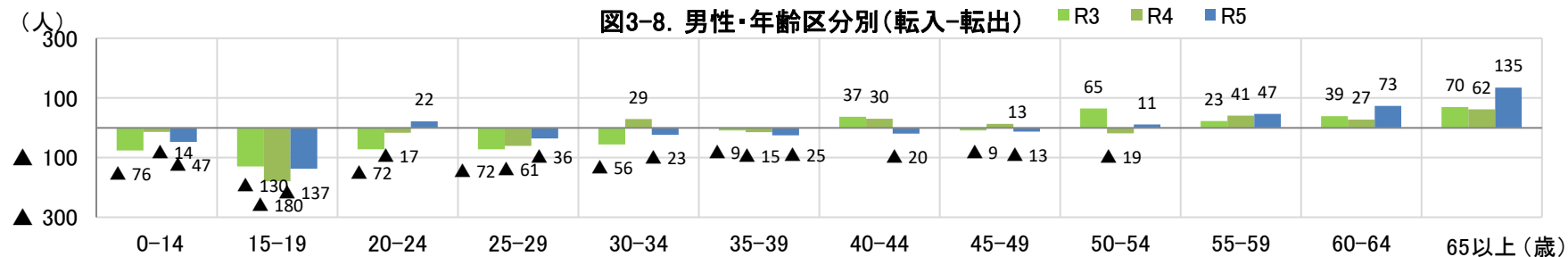
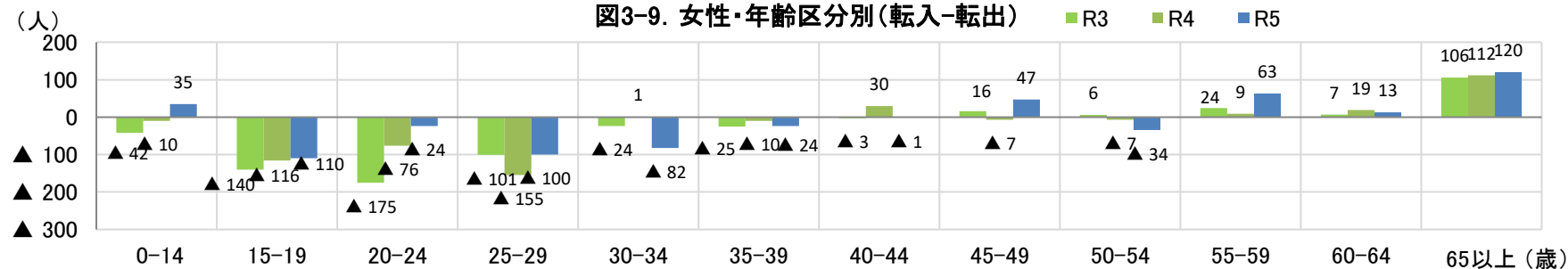


図3-9. 女性・年齢区分別(転入-転出)

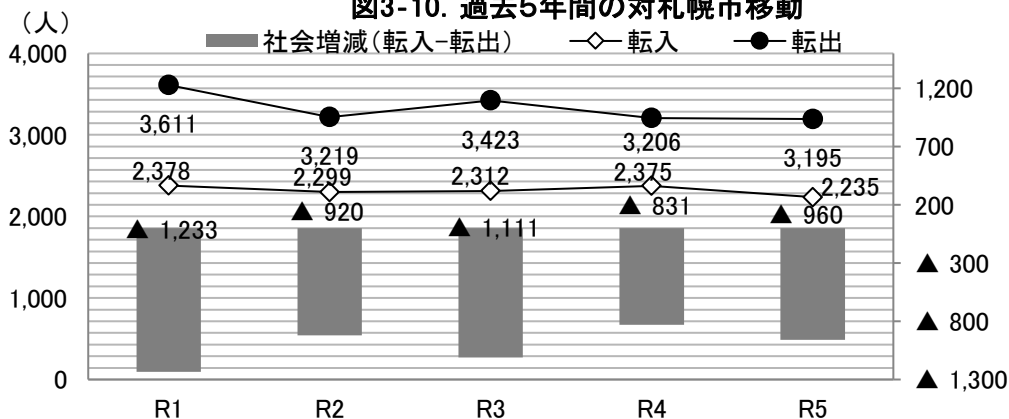


【主な特徴：前年と比較すると若年層（15歳-29歳）の転出超過幅は縮小（▲605→▲385）したが、30歳-34歳は拡大し、依然として若年層の転出が大きな課題。】

- (図3-7) 年齢区分別では、0歳-29歳の転出超過は減少しており、30歳-39歳は拡大、45歳以上はおおよそ転入超過となっている。
- (図3-8) 男性では、前年と比較し、15-29歳で転出超過幅の縮小や転入超過となっている一方、30歳-49歳で転出超過がみられる。
- (図3-9) 女性では、前年と比較し、15-29歳が転出超過幅が縮小する一方、30歳-39歳は転出超過が拡大している。

(オ) 対札幌市転出入状況

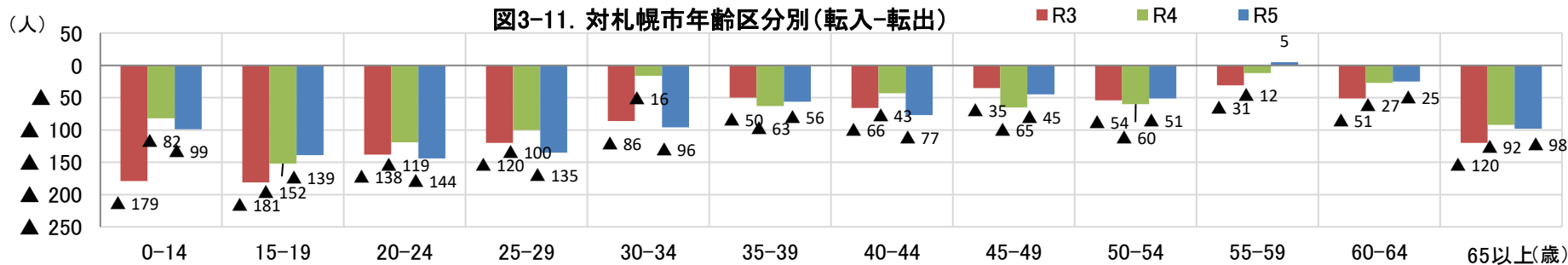
図3-10. 過去5年間の対札幌市移動



(図3-10)

道内移動で転出超過が最も大きい札幌市との転出入は、前年より転出者数が11人縮小、転入者数が140人減少した。

その結果、転出超過幅は前年から129人増加し、960人の社会減と高水準が継続している。



(図3-11) 年齢区分別では、55歳-59歳を除き、すべての区分で転出超過となっている。

4 令和5年における人口動態のまとめ

- 全体として、自然減が拡大傾向にあり、年間の人口減少数が過去2番目に高い3,750人となった。
- 自然減については、前年より死亡数が120人増加、出生数が60人減少となり自然減が拡大している。(▲3,460人→▲3,640人)
- 社会増減については、社会減が前年より204人縮小(▲314人→▲110人)
- 道内移動については、転入者数が33人減少したものの転出者数も111人減少し、結果として78人増加した。(65人→143人)
- 道外移動については、転入者数が133人増加したものの転出者数も7人増加し、結果として転出超過が減少した。(▲379人→▲253人)
- 15歳-34歳の転出超過幅は縮小してきているものの、他の年代に比べ転出超過は大きい。